<研究主題>

キャリア教育の視点を生かしたカリキュラム・マネジメント
～研修係の取組を中心として～

出水市立鶴荘学園（後期課程）　　教諭　　重信　圭祐

目　　次

1　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
2　研究主題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
3　研究主題設定の理由　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
⑴　学校教育目標から
⑵　今日的な理由から
4　研究の内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
⑴　研究の概要図
⑵　研究の仮説及び内容
5　研究の実際　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
⑴　研究の仮説１について
⑵　研究の仮説２について
6　研究の成果と課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
7　おわりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

【参考文献】
・　文部科学省　編『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総則編』（東洋館出版 2018年）
・　文部科学省　編『小学校キャリア教育の手引き（改訂版）』（教育出版 2013年）
・　文部科学省　編『中学校キャリア教育の手引き』（教育出版 2011年）
・　澤井陽介　著『授業の見方「主体的・対話的で深い学び」の授業改善』（東洋館出版 2017年）
・　出水市立鶴荘学園　『9年間の学びをつなぐ義務教育学校の在り方～「つながる教育課程」と「つなげる力を高める学習指導」～』（2018年）
・　長島町立鷹巣小学校　『気付き・やる気・本気を育てるキャリア教育の推進～「たわやかな力」と「のびる力」の育成を中心に～』（2016年）

1　はじめに

今年度，初めて研修係を務めることになった。これまで校内研修を受け，自己研鑽に励んできたが，校内研修を計画する側になり，その責任の大きさを感じながら校務にあたっている。

また，今年度は本校が，鹿児島県中学校進路指導・キャリア教育研究協議会出水大会の会場校となり，キャリア教育についてもより研修を深めることになった。本校職員の強い団結力，高い志を束ねられるように取り組んだ研修係としての実践をまとめることにした。【写真１】

【写真 1】校内研修の様子

2　研究主題

キャリア教育の視点を生かしたカリキュラム・マネジメント
～研修係の取組を中心として～

3　研究主題設定の理由

⑴　学校教育目標から

本校は「９年間の一貫した教育で，知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性を備え，夢に向かって主体的に学び続ける児童生徒を育成する」という学校教育目標の下，校訓「向学（かしこく）・克己（たくましく）・友愛（やさしく）」のそれぞれに目指す児童生徒像を設定している。義務教育学校として開校以来，「知・徳・体で夢実現」をキャッチフレーズに教育活動を行い，児童生徒，保護者，教師に浸透しつつある。

⑵　今日的な理由から

小・中学校の新学習指導要領では，「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し，連携・協働しながら，身に付けさせたい資質・能力を児童生徒に育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し，各学校において，教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現を図ることが求められた。学習指導要領改訂の要点は次のとおりである。

○　全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」の三つの柱から整理された。
○　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ることが示された。
○　キャリア教育の視点からの小・中・高等学校へのつながりが明確になるように，小学校の学級活動に「一人一人のキャリア形成と自己実現」が新設された。
○　特別活動が学校教育全体で行うキャリア教育の要としての役割を担うことが位置付けられた。

これらの改訂の趣旨を踏まえ，前期課程では今年度から，後期課程は来年度から教育課程の編成や授業づくりを行わなければならない。

4　研究の内容

⑴　研究の概要図

学校教育目標

９年間の一貫した教育で，知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性を備え，夢に向かって主体的に学び続ける児童生徒を育成する。

キャリア教育

「主体的・対話的で深い学び」を，キャリア教育の視点から迫ることで，新たな授業改善の視点や指導方法などを見出すことができるのではないか。

Action

○　校内研修振り返りアンケートの実施
○　次年度研修テーマの決定

Do

○　前期課程教諭と後期課程教諭が特定の教科でペアになって行う研修（ペア研修）による年間を通した実践

Check

○　県中学校進路指導・キャリア教育研究大会（出水大会）発表における外部評価
○　校内研修における評価

Plan

○　ペア教科ごとのアクションサイクルによる年間サイクルの作成

日常の校内研修を工夫させることで，校内研修が充実し，教師の意欲向上につながり，教育目標の実現に迫ることができるのではないか。

⑵　研究の仮説及び内容

研究の仮説１	研究の仮説２
日常の校内研修を工夫させることで，校内研修が充実し，教師の意欲向上につながり，教育目標の実現に迫ることができるのではないか。	「主体的・対話的で深い学び」を，キャリア教育の視点から迫ることで，新たな授業改善の視点や指導方法などを見出すことができるのではないか。
内容１	内容２
⑴　アクションサイクルの作成 ○　学びの羅針盤の活用 ○　ペア教科ごとの研修計画の立案 ⑵　職員研修資料の工夫 ○　職員研修のねらいの明確化 ○　「いつ・どこで・何が」が一目で分かる資料づくり ⑶　実践共有の場の設定 ○「鶴スタ掲示板」の運営，更新率の向上 ⑷　ワークショップ型の職員研修の実施 ○　教育の動向を踏まえた職員研修の実施	⑴　キャリア形成の方向性と関連付けるための手立て ○　「対話のユニット」の見直し ⑵　考えを広げ，深めさせるための手立て ○　切り返しの発問の整理・分析 ○　「つなぐ言葉」の作成 ⑶　「見方・考え方」を働かせるための手立て ○　「見方・考え方」が表出された状態のイメージ図の作成

５　研究の実際

⑴　研究の仮説１について

ア　アクションサイクルの作成

職員研修を充実させるためには，計画的な実践が不可欠である。そこで，今年度は，『学びの羅針盤』に掲載されているアクションサイクルを活用して職員研修の計画を立てることにした。

また，本校では，義務教育学校のよさを生かし，前期課程教諭と後期課程教諭がペアになって特定の教科の研修（ペア研修）を実施している。年間を通して，ペア教科で研修を進めることも多いことから，ペア教科ごとのアクションサイクルも作成することとした。作成したアクションサイクルは，Ａ４判で印刷し，職員室後方に掲示することで，各ペア教科の取組等を共有できるようにした。【写真２】

【写真２】ｱｸｼｮﾝｻｲｸﾙの掲示

イ　職員研修資料の工夫

研修係として，校内研修資料を作成するにあたり，次のような工夫を行うことで，「いつ・どこで・何が」行われるかを明確にした。【図１】

①　研修テーマ
年間を通した「研修テーマを記載することで，テーマを意識して研修に臨めるようにした。

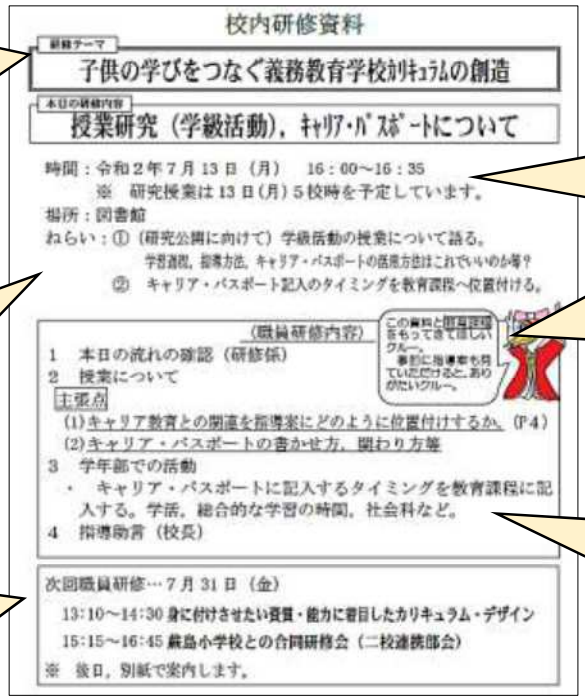
②　日時・場所
研修日時，場所を記載することで，一目で研修に関する情報を分かるようにした。

③　研修のねらい
研修のねらいを記載することで，研修内容を分かりやすくした。

④　準備物
必要な道具や準備物を記載することで，準備をしっかりとした状態で研修に臨めるようにした。

⑤　次回職員研修
次回職員研修の内容や準備物等を記載することで，見通しをもちやすくした。

研修資料を研修日の数日前に配布することで，事前に資料へ目を通せるように工夫した。


校内研修資料

研修テーマ
子供の学びをつなぐ義務教育学校ｶﾘｷｭﾗﾑの創造

本日の研修内容
授業研究（学級活動），ｷｬﾘｱ・ﾊﾟｽﾎﾟｰﾄについて

時間：令和２年７月13日（月）　16：00～16：35
※　研究授業は13日(月)５校時を予定しています。
場所：図書館
ねらい：①（研究公開に向けて）学級活動の授業について語る。
学習道具，指導方法，ｷｬﾘｱ・ﾊﾟｽﾎﾟｰﾄの活用方法はこれでいいのか等？
②　キャリア・パスポート記入のタイミングを教育課程へ位置付ける。

（職員研修内容）
この資料と関係図書をもって来て欲しいクル～。
事前に指導案も見ていただけると，ありがたいクル～。
1　本日の流れの確認（研修係）
2　授業について
主張点
(1)キャリア教育との関連を指導案にどのように位置付けするか。（P4）
(2)キャリア・パスポートの書かせ方，関わり方等
3　学年部での活動
・　キャリア・パスポートに記入するタイミングを教育課程に記入する。学活，総合的な学習の時間，社会科など。
4　指導助言（校長）

次回職員研修…７月31日（金）
13:10～14:30 身に付けさせたい資質・能力に着目したカリキュラム・デザイン
15:15～16:45 鼠島小学校との合同研修会（二校連携部会）
※　後日，別紙で案内します。

【図１】校内研修資料

ウ　実践共有の場の設定

本校職員室の後方には，「鶴スタ掲示板」を設置している。「鶴スタ掲示板」とは，教師の日頃の実践をＡ４用紙１枚程度にまとめ，掲示することで授業や子供の姿について語り合うための掲示板のことである。掲示板を基に，授業や子供の姿について語る様子も見られるが，その活用率は年々下がりつつあるように感じている。そこで，本年度は研修係として，本校の教師の実践を

紹介することとした。具体的には，授業後の板書の写真にコメントを書き加え掲示する程度である。研修係として，率先して「鶴スタ掲示板」を更新したことで，実践を紹介し合える雰囲気づくりに寄与することができた。今年度，紹介された実践数は，昨年度を上回る勢いである。【写真３】

【写真３】鶴スタ掲示板

エ　ワークショップ型の職員研修の実施

職員研修の充実を図るために，講義型の研修だけでなく，ワークショップ型の研修を積極的に取り入れた。

研修内容	≪実践例１≫ キャリア教育における身に付けさせたい資質・能力の設定	≪実践例２≫ キャリア・パスポートの活用方法
ねらい ↓	キャリア教育における身に付けさせたい資質・能力を，ワークショップを通して，具体的な子供の姿で考えることができる。	キャリア・パスポートの記述や自己評価の指導にあたって，教師がどのように対話的な関わり（キャリア発達を促すという意図をもった働きかけ）を行えばよいかを，ワークショップを通して，研修を深めることができる。
活動のポイント ↓	育成を目指す資質・能力を具体的に設定するために，以下の点に留意した。 ①　これまでの校内研修の積み重ねを基に，キャリア教育における身に付けさせたい力を 16 個に分類しておく。 ②　１～９年生を１～４年，５～７年，８～９年の発達段階の最終学年を修了する際に，身に付いてほしい力について協議する。 ③　キャリア教育における身に付けさせたい力が発揮されている場面を共有しやすくするために「○○（場所）で，□□（身に付けたい資質・能力）することができる」という表現を用いる。 	キャリア・パスポートを効果的に活用するために，「児童生徒の記入の仕方」，「教師の関わり方」の面で検討を行った。 ①　書くことが苦手な児童生徒に対して，対話的に関わるためには，どのような指導・支援を行えばよいか協議する。 【児童生徒の記入の仕方】 ②　教師が対話的に関わることへの留意点として，「自己有用感」，「自己の変容」，「学びの変容」，「結果は伴わなかったけれど努力しているといった学習の過程」等があることを例示し，実際の児童生徒の記入を価値付けるコメントの在り方について検討する。 【教師の関わり方】
活動の様子 ↓	９年生のときに，地域の方や来客者へ気持ちのよい挨拶をするためには，前期課程では，まず家庭や学校での挨拶が肝心ですね。 【写真４】校内研修の様子	 【写真６】校内研修の様子 キャリア・パスポートにコメントを書く際は，子供の名前を書くようにしているわ。「○○さんは～」と書くことを意識しているわ。その方がより伝わると思うの。
さらにひと工夫 	 【写真５】身に付けたい資質・能力を「16 の姿」と呼び，児童生徒と共有した。	 【写真７】キャリア・パスポートの評価のポイントを整理・分類した。

研修内容	≪実践例３≫ 各教科の系統を意識した掲示物作成	≪実践例４≫ ＮＲＴ学力分析
ねらい ↓	「系統」を意識した掲示物を作成することで，児童生徒に学習の一場面の見通しをもたせたり，これまでの学習を振り返らせたりする掲示物を作成することができる。また，ある一場面の「系統」について，ペア教科で理解を深めることができる。	抽出児童生徒のＮＲＴを分析し，教師間で有効な指導方法などを語り合うことを通して，互いの指導法改善に生かすことができる。
活動のポイント ↓	「系統」を意識した掲示物について検討するために，以下のような視点・形態をとった。 ① 内容の「系統」，学年の「系統」などを視点とする。 ② 研修係が準備した掲示板に，ペア教科ごとに作成する。 ③ 研修時間 90 分の中で完成させることを目標とする。	手立ての在り方を具体的に検討することができるようにするために，以下のような点に留意した。 ① 抽出児童生徒を基に協議する。 ② アンダーアチーバー0（ゼロ）を目標に，複数の教科担任が授業改善やフォローの仕方など，具体的な手立てについて語る。
活動の様子 ↓	前期課程６年生の比例の学習と，後期課程の比例の学習の違いを，表・式・グラフに分けてまとめてみよう。 【写真８】校内研修の様子	オーバーアチーバーの児童生徒が多いですね。アンダーアチーバーの児童生徒を支援していくためには，どんな手立てが有効かな。 【写真 10】校内研修の様子
さらにひと工夫 	 【写真９】掲示ボードを準備し，廊下に掲示した。「学び続ける教師」の姿を児童生徒及び来校者へも発信した。	 【図２】学力期待値から推定される偏差値と各教科の偏差値を比較して提示資料とした。

⑵ **研究の仮説２について**

仮説２の検証のために，キャリア教育を切り口として，これまでの実践や指導方法を見直した。以下のように，研究の視点を設定した。

まず，新学習指導要領解説では，「主体的・対話的で深い学び」を次のように定めている。

主体的な学び	学ぶことに興味や関心をもち，自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら，見通しをもって粘り強く取り組み，自己の学習活動を振り返って次につなげる（学び）
対話的な学び	児童生徒同士の協働，教職員や地域の人との対話，先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ，自己の考えを広げ深める（学び）
深い学び	習得・活用・探究という学びの過程の中で，各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かう（学び）

次に，新学習指導要領解説では，深い学びとの関連が深い「見方・考え方」について，次のように定めている。

> 各教科等の「見方・考え方」は，「どのような視点で物事を捉え，どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの，物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり，教科等の学習と社会をつなぐものであることから，児童生徒が学習や人生において，「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることこそ，教師の専門性が発揮されることが求められる。

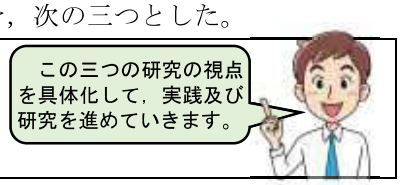
「主体的な学び」は,「自己のキャリア形成と方向性と関連付けながら…以下(略)」とあるように，キャリア教育との関連も深い。学ぶ意義や将来とのつながりを明確にした指導をする必要がある。

「対話的な学び」は，基礎的・汎用的能力の中でも，特に，人間関係形成・社会形成能力との関連が深い。『キャリア教育を創る（国立教育政策研究所生徒指導センター平成 23 年)』では,「話合い活動やグループ活動の活用など，指導方法の工夫・改善を通して社会生活，職業生活にも応用できる能力を高める。」と述べられており，児童生徒同士の対話のスキルを高めることが社会的・職業的自立のために重要である。

「深い学び」は，実現するために鍵となるのが，「見方・考え方」である。「見方・考え方」は，「教科等の教育と社会をつなぐもの」であり，また,「各教科等の学習の中で活用されるだけでなく，大人になって生活していくにあたっても重要な働きをするもの」となるとも述べられており，社会的・職業的自立を目指すキャリア教育との関連が深い。

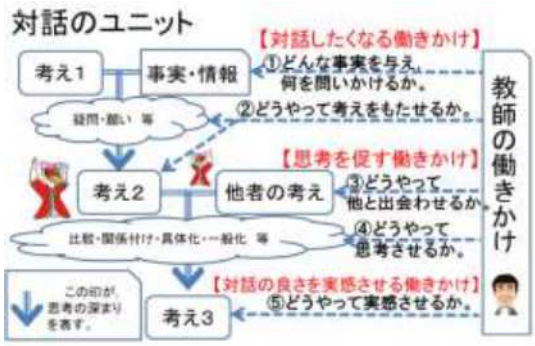
そこで，キャリア教育を切り口にして見えてきた研究の視点を，次の三つとした。

- ○　キャリア形成の方向性と関連付けるための手立て
- ○　考えを広げ，深めさせるための手立て
- ○　「見方・考え方」を働かせるための手立て



ア　キャリア形成の方向性と関連付けるための手立て

キャリア形成の方向性と関連付けるための手立てとは，今の学びが日常生活や社会とどのようにつながっているかを明示的に指導するための教師の指導方法について明らかにすることである。本校はこれまで対話における児童生徒の様相と教師の働きかけについてまとめられた「対話のユニット」を中心に授業改善を図り，成果を得てきた。【図３】



【図３】対話のユニット

今回は，この対話場面に焦点化された「対話のユニット」に，キャリア教育の視点を加え，新しい「対話のユニット（ver2.0)」を作成した。【図４】

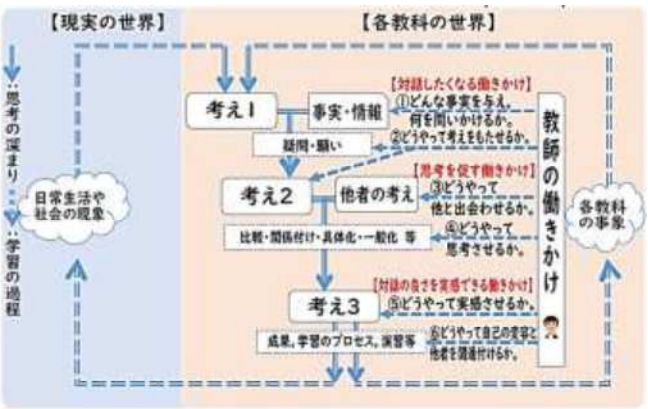
新しい対話のユニット（ver2.0)」の変更点は次の二点である。

１点目は，キャリア形成の方向性と関連付けを行えるように，問題解決的な学習の始まりを【現実の世界】(左側サイクル…日常生活や社会の現象と関連付けた授業を展開すること）と【各教科の世界】(右側サイクル…各教科の事象の中で完結する授業のこと）に分けたことである。この二つのサイクルは相互作用的に関わっており，意識的に回すことが重要である。

２点目は，対話によって深まった考え【図４】の考え３を基に，授業を振り返るという学習の過程を位置付けたことである。振り返りの視点としては，何ができるようになったかという学習の成果，どのように学んだかという学習のプロセス，そして，本時の学びがどの程度身に付いたかを振り返るための演習がある。

上記の三つの視点を基にして，授業の学びを振り返ることが，児童生徒のキャリア形成につながっていくと考える。

このように学習の過程を二つのサイクルで表したり，振り返りを位置付けたりすることで，児童生徒のキャリア形成につなげ，主体的な学びを実現したいと考えた。



【図４】キャリア教育の視点で見直した対話のユニット

各教科等の実践では，以下のような具体的な働きかけが見られた。

○　日常の中の「国語」を意識させるために，学年に応じた発表の仕方に着目させたり，作文や説明文，物語など様々な文章を書かせたりした。振り返りの場面では，キーワードとなる学習用語を入れて書かせた。（国語科）
○　ラージタスクとして，「ツルについて英語でガイドをしよう」というラージタスクを設定し，各単元でツル科と関連した内容を盛り込んだ。（外国語活動・外国語科）
○　前期課程低学年では，算数遊びを取り入れ，教室にあるものを数学の事象として捉えて，授業を行った。後期課程では，振り返りで本時の学びが，測量士や大工などの職業と関連が深いことを取り上げた。（算数科・数学科）
○　単元の後半に，単元の内容と関連した日常生活の話題について紹介した（酸化・還元を利用して，金属の単体がとれる等）。今後，事象提示の場面で日常生活と関連させた問題を提示していきたい（使い捨てカイロの中身等）。（理科）
○　将来，健康に過ごしていくために，バランスのとれた食事や適度な運動，休養・睡眠のとり方が，今までの自分にどうかかわり，また，これからどうしていかなければならないのかを考える活動を取り入れた。（体育科・保健体育科）

以上のような具体的実践から見えてきたことは，次の三つである。

○　各教科の学びが児童生徒の生活に関連付いていることを見せる（示す）必要があること
○　現在の自分と将来（過去）の自分を比較すること
○　１単位時間の中で，【現実世界】と【各教科】の両方のサイクルを回すこともあること

イ　考えを広げ，深めさせるための手立て

考えを広げ，深めるための手立てとは，他者との対話を通して，自己の考えを広めたり，深めたりする働きかけである。今回は，児童生徒たちの思考を広げたり，深めたりすることを意図して行う，教師の切り返しの発問に着目した。各教科の実践から，教師の切り返しの発問を三つに分類した。【表１】

さらに，児童生徒同士で考えを広げたり，深めたりできないかと考え，「つなぐ言葉」を作

【表１】　切り返しの発問

理由や方法を問う	「どうして，そう思うの？」 「なぜ，そう感じたの？」 「～の根拠は何かな？」 「なんとなくの理由は何かな？」 「～は，どういうところから感じたの？」
違う表現を問う	「～を詳しく言うと？」 「～○○さんの意見，あなたはどう思う？」 「別の言葉で言い換えると？」 「分かりやすく言うと？」
多様な視点から問う	「誰の立場から言っているの？」 「もし○○だったら？」 「○○（考える視点）はどう？」 「これまではどうだった？」

成した。【図５】これは，教師が児童生徒の思考を広げたり，深めたりすることをねらった切り返しの発問を，児童生徒が使える形で分類・整理したものである。つまり，対話的な学びを推し進めるものであり，本校が研究を進めてきた「対話のユニット」をより授業レベルに具体化したものであると考えることができる。

このように，児童生徒が対話的な学びを行うためには，その対話の方向性や対話を通して目指す姿を示す必要があると考える。しかしながら，「つなぐ言葉」は，「対話的な学び」の実現に向けた一つの手立てにすぎず，対話的な学びを保証するものではない。対話的な学びにより，児童生徒の考えを広げ，深めるためには，児童生徒にさせたい思考を具体的に教師側がもっておくこと，対話の結果得られる概念的な考えまでの道筋をしっかりと想定しておくことが求められる。

つなぐ言葉（ことば）

類型	話し手	聞き手
順序	「まず，…。次に…。最後に，…。」	「順序よく言うと？」
理由	「どうしてかと言うと，…。」	「なぜ（どうして），…？」
詳細	「くわしく言うと，…。」	「くわしく言うと，…？」
付加	「付け加えると，…？」「さらに，…。」	「他にありますか？」
統合	「まとめて言うと，…。」	「まとめると？」
分割	「…と…を分けて考えると，…。」	「…と…を，分けて言うと？」
換言	「一言で言うと（つまり），…」	「つまり，何なの？」
例示	「例えば，…。」	「例えば，何がありますか？」
類似	「…と同じ（似ているように），…。」	「…と，同じところはありますか？」
相違	「…とちがって，…。」	「…と，ちがうところは何ですか？」
対比	「…とは反対に，…。」	「他にどんな考え方ができますか？」
多面	「見る方向を変えると，…。」	

【図５】つなぐ言葉

ウ　「見方・考え方」を働かせるための手立て

「見方・考え方」を働かせるための手立てとは，児童生徒が深い学びを実現するために，どのような働きかけを行えばよいかを明らかにすることである。「見方・考え方」を研究の視点に据えるにあたり，「見方・考え方」とは何かを共有するために，本校としての捉え（定義）を，次のように設定した。

「見方」　･･･物事を捉える視点
「考え方」･･･課題を解決するための考え方（思考）

しかし，「視点」をもてるからこそ「思考」することから，「見方」と「考え方」は，不可分の関係であると考え，これを一体的に捉え研究を進めることとした。また，「見方・考え方」という抽象的な言葉だけでは，各教科で共通のイメージを共有することは難しいと考え，本校の特設教科「ツル科」と関連させて再度，「見方・考え方」を捉え直すこととした。「出水の観光問題」という課題に，各教科固有の立ち位置から「見方・考え方」を働かせ，解決方法を見出している状態を具体化した。【図６】各教科等の学びを通して，児童生徒が将来，このような各教科固有の「見方・考え方」を働かせるためには，各教科の日々の授業でどのような工夫がされるべきか考えた。

【図６】見方・考え方が表出された状態のイメージ図

このような共通理解の基で行われた各教科等の実践では，以下のような具体的な働きかけが見られた。

○　既習内容との違いや共通点を押さえたことで，視点をしぼって考えさせる。（理科）
○　前期課程教科書（学校図書）に掲載されている「見方・考え方モンスター」を掲示することで，児童生徒に解決方法の見通しをもたせやすくしている。（算数科・数学科）
○　前期課程児童はＡＬＴへの発表をゴールにしたり，後期課程生徒はツル科を使用場面のゴールにしたり，使用場面を明確にした単元目標を立てたりしている。（外国語活動・外国語科）
○　「知覚すること（音色や曲想の変化）」と「感受すること（音や音楽の特質や雰囲気）」を分けて考えさせ，なぜそのような構成になっているのか，なぜこのような特徴があるのか疑問をもたせ，対話活動を取り入れている。（音楽科）

以上のような具体的実践から見えてきたことは，次の二つである。

○　児童生徒に働かせたい見方・考え方を例示したり，着目する視点を与えたりすることで，思考を焦点化させる必要があること
○　児童生徒が問いをもてるような学習問題を設定し，目的意識をもたせること

このように，各教科固有の「見方・考え方」は児童生徒たちが自然発生的に身に付けていくものではない。教師がどのように仕向ければ，児童生徒が「見方・考え方」を働かせるようになるのかを考え，意図的に仕掛けることによって，そこで働かせた「見方・考え方」を児童生徒に自覚的に捉えさせることが必要である。

６　研究の成果と課題

	成　果	課　題
仮説１	○　校内研修の資料を工夫したり，ワークショップ型の研修を取り入れたりすることで，充実した校内研修を行うことができた。	●　講師を招聘した校内研修が少なかった。本校の教職員だけで研修を深められる内容と，講師を招聘して研修を深める内容をバランスよく計画したい。
仮説２	○　各教科における授業での学びが児童生徒と，どのようにつながっているのかを意識した授業づくりを展開することで，学ぶ意欲の高まりを感じる児童生徒の姿が見られるようになった。 ○　「対話のユニット」やそれをより具体化した「つなぐ言葉」の作成の経緯や考え方を示し，各ペア教科で共有することで，互いの授業改善につなげることができた。	●　今後，学力検査等を使って，着実に学力が身に付いているか客観的なデータを基に検証していく必要がある。 ●　児童生徒に「見方・考え方」を働かせ，深い学びを実現するためには，どのような「見方・考え方」を働かせ，どのように知識を深め，大きな概念を形成していくのかを教師自身が明確にもっておく必要がある。

７　おわりに

今年度，試行錯誤しながら，研修係としての校務を進めてきた。私の拙い計画や提案でも，一生懸命取り組む本校職員に感謝したい。残り３か月，研修係としての仕事を全うし，次年度の研修計画の作成等に尽力したい。